静岡経済研究所
NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所
理事長　一 杉 逸 朗
静岡市葵区追手町1-13
TEL　054-250-8750
FAX　054-250-8770

2018 年 5 月 23 日

2018年 ゴールデンウイーク集客動向調査

連休後半の風雨など天候不順を受け、人出は前年比△6.1%減
ただし、体験型イベントは想定以上の効果を実感

■今年のゴールデンウイーク期間中（９日間：４月28日～５月６日）に、静岡県内各地で行われたイベントや主要観光施設（255カ所）の人出は延べ748万人で、前年（９日間：４月29日～５月７日、797万人）と比べて△6.1%の減少となった。

■連休後半の風雨など天候に悩まされ、多くのイベントや屋外型施設が集客に苦戦。「浜松まつり」（浜松市）や、花の見ごろが前倒しになった「藤まつり」（藤枝市）などの『イベント』（前年比△9.4%）をはじめ、『商業施設・道の駅』（同△4.4%）、『参加・体験型施設、娯楽施設』（同△5.7%）、『博物館・美術館、自然スポット』（同△2.5%）が天候の影響で減少した。一方、マスメディアによるＰＲが功を奏した『動植物園・水族館』（同＋1.8%）は前年を上回った。

■“天候”は県内施設・イベントの集客に悪影響を与えたが、一方、多くの事業者がプラスの要因と捉えているのが“独自イベントや特別企画”で、今年から体験型イベントの新規実施・拡充を行った事業者は、想定以上の効果を実感している。また、消費単価にプラスの変化があったとの事業者も多く、来場者の購買意欲の高まりがみられた。県内事業者は、付加価値の高い“体験の場”を提供し、集客力をさらに高めることが望まれる。

担当：研究員　吉原　正信、黒田　彩友

2018年ゴールデンウイーク集客動向調査

～連休後半の風雨など天候に悩まされ、人出は前年比△6.1%減～

■今年のゴールデンウイーク期間中（９日間：４月28日～５月６日）に、静岡県内各地で行われたイベントや主要観光施設（255カ所）の人出は延べ748万人で、前年（９日間：４月29日～５月７日、797万人）と比べて△6.1%の減少となった。

■連休後半の風雨など天候に悩まされ、多くのイベントや屋外型施設が集客に苦戦。「浜松まつり」（浜松市）や、花の見ごろが前倒しになった「藤まつり」（藤枝市）などの『イベント』（前年比△9.4%）をはじめ、『商業施設・道の駅』（同△4.4%）、『参加・体験型施設、娯楽施設』（同△5.7%）、『博物館・美術館、自然スポット』（同△2.5%）が天候の影響で減少した。一方、マスメディアによるＰＲが功を奏した『動植物園・水族館』（同＋1.8%）は前年を上回った。

■“天候”は県内施設・イベントの集客に悪影響を与えたが、一方、多くの事業者がプラスの要因と捉えているのが“独自イベントや特別企画”で、今年から体験型イベントの新規実施・拡充を行った事業者は、想定以上の効果を実感している。また、消費単価にプラスの変化があったとの事業者も多く、来場者の購買意欲の高まりがみられた。県内事業者は、付加価値の高い“体験の場”を提供し、集客力をさらに高めることが望まれる。

県内全域で前年比マイナス、連休後半の初日が雨天で客足減少

今年のゴールデンウイーク（以下、ＧＷ）は、４月28日（土）から５月６日（日）までと、期間は前年（４月29日（土）から５月７日（日））と変わらず９日間だった。暦上では28日から30日までの３連休と３日から６日までの４連休に分かれたため、イベントや施設の集客は２つの連休に分散した。ただし、気象庁の発表によれば、前半の３連休は好天が続いたが、後半は２日の午後から３日にかけて雨天に見舞われ、その後も強風が続いたことから、中止となった屋外イベントが散見された。

こうした天候の影響もあり、ＧＷ期間中の静岡県内の主なイベントや観光施設255カ所の人出は延べ748万人、前年（797万人）から△6.1%の減少となった（詳細は**６頁、図表５**参照）。

地域別にみると、西部地域は、恒例の「浜松まつり」の初日（３日）の人出が雨の影響で鈍かったことに加え、前年はＮＨＫ大河ドラマ「おんな城主 直虎」の放映が追い風となっていたためにその反動を受け、地域全体では前年比△4.9%減少した。中部地域は、新規イベントの「しずおかフェア」が人気を博したものの、花の見ごろがＧＷから外れた「藤まつり」やイベント当日が雨天となった「由比桜えびまつり」の来場者数が落ち込み、地域全体で△11.3%の減少。東部地域も“道の駅”

▲初日は雨天も、最終日は晴天に恵まれた浜松まつり

▲子供連れでにぎわうしずおかフェア

など商業施設を中心に人出が伸びず、地域全体で△4.6%の減少となった。

なお、５万人以上を集客したイベントや施設は**図表１**の通りである。

以下、ＧＷ期間中のイベントや観光施設を６つのグループに分け、今年の特徴をみていく。

１．イベント（35先）

〔 人出　273.7万人　前年比△9.4% 〕

～天候に左右され、屋外イベントが低調～

県内の主要イベントの集客数は、273.7万人と前年に比べて△9.4%減少した。ＧＷ期間中における県内最大のイベント「浜松まつり」（浜松市）は、雨天の影響で５月３日初日の人出が前年を約20万人下回り、期間合計でも177.3万人、前年（185.9万人）と比べて△4.6%の減少となった。また、「藤まつり」（藤枝市、同△21.1%）や「小室山公園つつじ祭り」（伊東市、同△44.4%）、「姫の沢公園花まつり」（熱海市、同△68.4%）といった花関連イベントは、４月から温暖な気候が続いたために『花の開花が祭り前半で終わり、ＧＷ後半の来場者数が伸び悩んだ』との声が聞かれ、前年を大きく下

図表１　静岡県内のＧＷ集客５万人以上のイベント・観光施設

	イベント、施設名	集客人数	前年比
1	浜松まつり（浜松市）	177.3万人	△4.6%
2	道の駅　富士川楽座（富士市）	13.0万人	△8.3%
3	藤まつり（藤枝市）	11.5万人	△21.1%
4	アクトシティ浜松（浜松市）	11.4万人	△8.6%
5	道の駅　伊東マリンタウン（伊東市）	10.4万人	△11.7%
6	しずおかフェア（静岡市）	10.0万人	前年開催なし
7	箱根西麓・三島大吊橋 スカイウォーク（三島市）	9.6万人	＋6.7%
8	富士スピードウェイ（小山町）	8.6万人	△6.3%

	イベント、施設名	集客人数	前年比
9	浅間大社 流鏑馬祭（富士宮市）	8.5万人	＋6.3%
10	浜名湖ガーデンパーク（浜松市）	7.6万人	△8.5%
11	道の駅　伊豆ゲートウェイ函南（函南町）	7.5万人	△12.7%
12	焼津さかなセンター（焼津市）	7.4万人	＋6.8%
13	静岡県立森林公園（浜松市）	5.5万人	＋19.6%
14	静岡市立日本平動物園（静岡市）	5.4万人	△5.1%
15	用宗漁港まつり（静岡市）	5.0万人	±0.0%
15	由比桜えびまつり（静岡市）	5.0万人	△28.6%

注）データ公表が可能なイベント、施設のみを掲載

資料：当所アンケート

回った。

ＮＨＫ大河ドラマ「おんな城主 直虎」の舞台となった「龍潭寺」（浜松市）のイベント「新緑・さつきまつり」の人出は、一昨年の水準を上回ってはいるものの、前年から約７割減の1.0万人にとどまった。

2．商業施設・道の駅（41先）

〔人出　277.9万人　前年比 △4.4%〕

～開設効果の反動受け、“道の駅”が前年比減～

商業施設・道の駅の集客数は、277.9万人と前年を△4.4%下回った。回答のあった41先のうち、前年から増加した施設は全体の２割弱にあたる７先にとどまった。

百貨店やショッピングセンターなどの大型商業施設では、外国人観光客が目立つ一方で、『小さな子供連れファミリー層の来店が少なかった』との声が聞かれ、総じて前年を割り込んだ。また、“道の駅”も、回答のあった17施設中15先で前年実績を下回った。とくに、昨年２月に観覧車が稼働した「道の駅 富士川楽座」（富士市、前年比△8.3%）や同５月オープンの「道の駅 伊豆ゲートウェイ函南」（函南町、同△12.7%）は開設年度効果の反動が大きく、ともに前年から１割前後の減少となった。

3．参加・体験型施設、娯楽施設（83先）

〔人出　115.9万人　前年比 △5.7%〕

～景観満喫型の施設が堅調、娯楽は前年割れ～

参加・体験型施設や映画館など娯楽施設の来場者数は、115.9万人と前年を△5.7%下回った。

テーマパークなどの参加・体験型施設では、５月２日から３日にかけての天候不順の影響が大きく、『悪天候がとくにイルミネーションに影響した』と振り返る「伊豆ぐらんぱる公園」（伊東市、前年比△13.0%）をはじめ、多くの施設が苦戦を強いられた。一方で、「箱根西麓・三島大吊橋 スカイウォーク」（三島市、同＋6.7%）や「日本平ロープウェイ」（静岡市、同＋8.1%）、“空の遊歩道”で知られる「静岡県立森林公園」（浜松市、同＋19.6%）など、高所からの景観を満喫できる体験型施設は、県内外の観光客をうまく取り込むことに成功し、前年を上回る集客数となった。また、キャンプ場は、５月２日の利用者こそ極端に少なかったものの、他の日は大きな崩れはみられず、子供連れで賑わいをみせた。

娯楽施設では、前年に地元開催のレースを実施した「浜松オートレース場」（浜松市、同△34.7%）が大幅な反動減となり、映画館も、洋画・邦画ともにヒット作に恵まれた前年に比べ『作品の観客動員力が弱かった』ことから、入場者数が前年を３割近く下回った。

4．動植物園・水族館（20先）

〔人出　40.7万人　前年比 ＋1.8%〕

～マスメディアによるＰＲが奏功し前年比増～

動植物園・水族館の来場者数は40.7万人と、前年を＋1.8%上回った。東部地域では『強風によりマリンレジャーが敬遠され、代わりの立ち寄りにつながった』との意見も聞かれ、回答のあった11施設のうち７先が前年を上回った。「伊豆シャボテン動物公園」（伊東市、前年比＋4.4%）や「竜洋昆虫自然観察公園」（磐田市、同＋32.1%）では、『ＧＷ直前に動物のベビーラッシュがあり、新聞やテレビで取り上げられた』『新聞に昆虫公園の記事が掲載された』などが来場者増の一因に挙げられ、マスメディアによるＰＲが奏功した。

5．博物館・美術館、自然スポット（50先）

〔人出　25.4万人　前年比 △2.5%〕

～新施設、自然スポットが健闘～

博物館・美術館、自然スポットの来場者数は25.4万人と、前年を△2.5%下回った。西部地域では、“直虎”効果が一巡した「浜松城」（浜松市、前年比△21.9%）が落ち込んだものの、“昭和レトロ

▲茶摘み体験をする、ふじのくに茶の都ミュージアム来場者

な博物館”が開催された「浜松市博物館」（浜松市、同＋34.7%）が健闘した。東・中部地域では、「韮山反射炉」（伊豆の国市、同△19.2%）、「久能山東照宮」（静岡市、同△3.5%）といった史跡や寺社の集客が振るわなかったが、昨年12月にオープンした「静岡県富士山世界遺産センター」（富士宮市）が注目を集め、多くの観光客で賑わった。また、今年３月オープンの「ふじのくに茶の都ミュージアム」（島田市）では“新茶フェア”が開催され、茶摘み体験など『主体的に楽しく学ぶ機会』を多くの子供たちに提供した。

自然スポットでは、「白糸の滝」（富士宮市、同＋1.8%）や「恋人岬」（伊豆市、同＋0.3%）が前年を上回った。なお、伊豆半島ジオパークの中央拠点施設「伊豆半島ジオパークミュージアム ジオリア」（伊豆市）には、ＧＷ直前の“世界ジオパーク認定”が話題を呼び、前年の２倍を超える約1,300人が来場した。

６．日帰り温浴施設（26先）

〔 人出　14.9万人　前年比 △3.3% 〕

～一部で特需の恩恵あるも、総じて振るわず～

日帰り温浴施設の来場者数は14.9万人と、前年を△3.3%下回った。東部地域では、『アニメ“ゆるキャン△”の舞台となった朝霧高原でキャンプ客が多く、当施設の利用が増えた』という施設もみられたが、「極楽湯 三島店」（三島市、同△6.1%）や「すその美人の湯 ヘルシーパーク裾野」（裾野市、同△4.1%）をはじめ、回答のあった26施設中18先が前年を下回る結果となった。

県内の交通量は高速・有料道路が減少 鉄道・空路は前年を上回る

最後に、ＧＷ期間中における交通機関の利用状況をみる。まず、４月27日から５月６日の東名・新東名高速道路の県内区間（東名：御殿場ＩＣ～三ケ日ＪＣＴ、新東名：御殿場ＪＣＴ～浜松いなさＪＣＴ）では、１日の平均交通量が11万8,300台（中日本高速道路㈱発表）と、前年（11万8,600台）を△0.3%下回った。

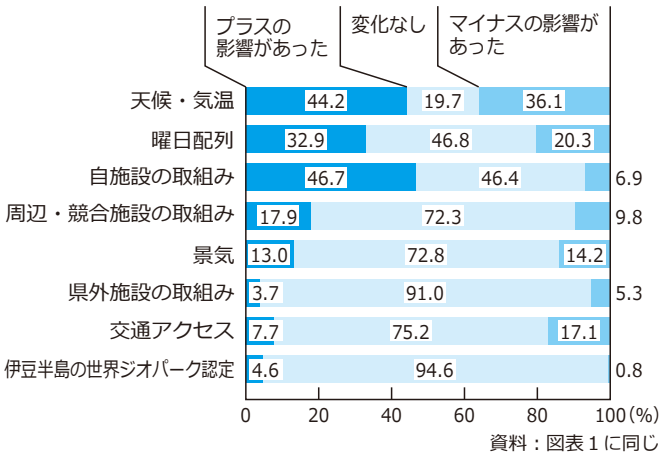
高速道路以外の有料道路の交通量は、県内全体で前年比△5.5%減少した。西部地域では浜松市の浜名湖新橋（はまゆう大橋）の利用量が同△4.1%、磐田市と浜松市を結ぶ新掛塚橋（遠州大橋）が同△5.7%の減少となった。東部地域では伊豆スカイラインが同△5.4%下回ったほか、伊豆中央道も同△7.1%減少した。

鉄道では、ＪＲ東海管内における４月27日から５月６日までの新幹線の利用者数は354.6万人と、前年から＋5.2%増加した。また、県内在来線の特急列車（御殿場線、身延線）の利用客は約2.2万人で、同＋10.0%の増加となった。

富士山静岡空港の利用状況（４月27日～５月６日）をみると、国内線は、全日空が4,737人(平均搭乗率71.3%)、ＦＤＡが9,516人（同81.4%）の合計１万4,253人となり、全日空、ＦＤＡともに搭乗者が増加、搭乗率も前年を上回った。なお、国際線の搭乗率も、77.0%と前年（61.9%）を大きく上回っており、宿泊旅行客が増加した模様である。

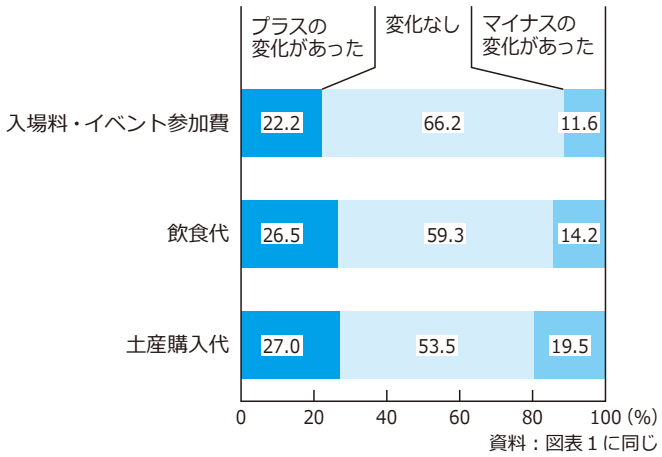
総じてみると、高速・有料道路の交通量は前年を割り込んだが、鉄道や空路は前年を上回った。

図表２　来場者の増減要因



資料：図表１に同じ

図表３　来場者の消費単価



資料：図表１に同じ

付加価値の高い“体験の場”を提供し、集客力のさらなる向上を

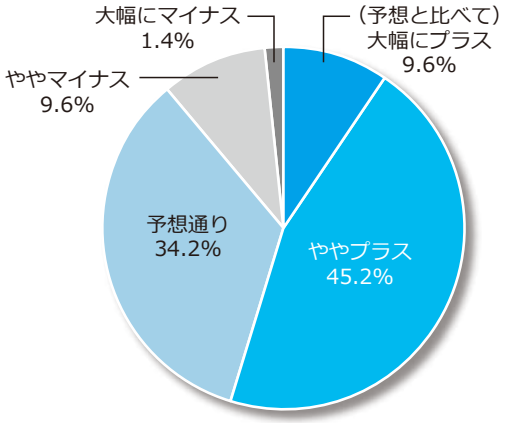
以上みてきたように、今年のＧＷ期間中の県内施設、イベントへの人出は748万人と、前年を△6.1%下回る結果となった。

来場者の増減要因で「プラスの影響があった」こととしては、独自イベントや特別企画など「自施設の取組み」を挙げる事業者が46.7%（前年値46.5%）と最も多かった（**図表２**）。次いで、挙がったのが「天候・気温」で44.2%（同60.8%）だったが、マイナスと捉える回答も36.1%（同11.2%）あり、連休後半の荒天が集客に悪影響を与えた様子がうかがえる。次いでプラス要因として多かったのが「曜日配列」の32.9%（同49.1%）だが、反対に『２つの連休に分散したことはマイナス』など、減少要因と捉える事業者も２割ほどおり、意見が分かれた。

一方、**来場者の消費単価**について「プラスの変化があった」との回答は、「土産購入代」が27.0%と最も多く、次いで「飲食代」が26.5%、「入場料・イベント参加費」が22.2%となった。いずれも「マイナスの変化があった」を上回り、来場者の購買意欲の高まりがみられた（**図表３**）。

また、**今年から新たに実施した、または昨年より拡充した体験型イベントの有無**について尋ねたところ、３割の事業者が「あった」と回答。その

図表４　体験型イベント・企画の導入効果



資料：図表１に同じ

効果については、半数以上が「（予想と比べて）プラス」だったと答え、集客数や客単価の増加に寄与したとみられる（**図表４**）。さらに「今後も体験型イベントを拡充していきたい」と考える事業者は全体の６割を超え、顧客からも体験型イベントの拡充を希望する声が数多く聞かれるという。

今年のＧＷ期間の県内の人出は、雨天や花の見ごろの前倒し、“直虎”効果の反動などが影響し、前年を割り込んだ。一方で、来訪客の購買意欲は高まる傾向がみられ、価値あるサービスに対しては積極的に利用を検討する消費者が増えつつある。来年のＧＷは最大10連休が予想され、さらなる消費の活性化が期待できる。県内事業者が付加価値の高い“体験の場”を提供していくことで、集客力をさらに高めることが望まれる。

図表５　2018年GW静岡県内イベント・観光施設の人出

イベント、施設名	所在地	人出（人）	前年比（%）
道の駅　富士川楽座	富士市	129,878	△8.3
道の駅　伊東マリンタウン	伊東市	103,635	△11.7
箱根西麓・三島大吊橋　スカイウォーク	三島市	96,000	+6.7
富士スピードウェイ	小山町	86,300	△6.3
浅間大社　流鏑馬祭	富士宮市	85,000	+6.3
道の駅　伊豆ゲートウェイ函南	函南町	74,882	△12.7
春の大通り商店街まつり	三島市	45,000	+7.1
春のあたみビール祭り	**熱海市**	**44,000**	**+29.4**
富士山こどもの国	富士市	39,993	△1.8
富士山樹空の森	御殿場市	37,900	+16.5
伊豆ぐらんぱる公園	伊東市	36,891	△13.0
沼津　みなと新鮮館	沼津市	31,591	△14.9
白糸の滝	富士宮市	31,417	+1.8
伊豆シャボテン動物公園	伊東市	28,529	+4.4
小室山公園つつじ祭り	伊東市	27,100	△44.4
道の駅　ふじおやま	小山町	25,123	△17.3
あさぎりフードパーク	富士宮市	24,500	+12.4
三島市立公園　楽寿園	**三島市**	**24,167**	**+20.1**
田貫湖キャンプ場	富士宮市	23,910	△18.8
静岡県富士山世界遺産センター	富士宮市	22,495	—
伊豆アニマルキングダム	東伊豆町	22,013	△10.4
道の駅　開国下田みなと	下田市	20,905	+10.3
ながはま特設市	**熱海市**	**20,792**	**+49.9**
伊豆修善寺サイクルスポーツセンター	伊豆市	18,907	△11.5
沼津こいのぼりフェスティバル	沼津市	17,800	△34.8
アカオハーブ&ローズガーデン	**熱海市**	**17,522**	**+70.6**
伊豆の国パノラマパーク	伊豆の国市	17,204	△15.3
極楽湯　三島店	三島市	16,610	△6.1
道の駅　伊豆のへそ	伊豆の国市	13,695	△3.0
姫の沢公園花まつり	熱海市	13,100	△68.4
韮山反射炉	伊豆の国市	12,281	△19.2
沼津港大型展望水門「びゅうお」	沼津市	12,150	+0.0
初島ところ天まつり	熱海市	11,103	△15.6
田んぼを使った花畑	松崎町	10,960	△8.0
すその美人の湯　ヘルシーパーク裾野	裾野市	10,796	△4.1
恋人岬	伊豆市	10,737	+0.3
大社の杜みしま	三島市	9,731	+3.3
環境省田貫湖ふれあい自然塾	富士宮市	9,353	△5.9
土肥金山	伊豆市	8,055	+5.7
下田ロープウェイ	下田市	7,312	△7.1
富士山天母の湯	富士宮市	6,414	+16.0
沼津御用邸記念公園	沼津市	5,620	△21.3
東部地域その他73カ所		1,368,975	—
東部地域　合計		**2,680,346**	**△4.6**
藤まつり	藤枝市	115,000	△21.1
しずおかフェア	静岡市	100,000	—
焼津さかなセンター	焼津市	74,452	+6.8
静岡市立日本平動物園	静岡市	53,527	△5.1
用宗漁港まつり	静岡市	50,000	±0.0
由比桜えびまつり	静岡市	50,000	△28.6
清水魚市場　河岸の市	静岡市	40,344	△1.1
草薙総合運動場	静岡市	39,443	+5.8
こだま号と軽便の鉄道ジオラマ展	藤枝市	38,404	△21.9

イベント、施設名	所在地	人出（人）	前年比（%）
日本平ロープウェイ	静岡市	37,300	+8.1
静岡競輪場	静岡市	36,110	△15.5
グランシップ	静岡市	23,823	+19.7
久能山東照宮	静岡市	23,780	△3.5
静岡県営吉田公園	吉田町	17,729	△3.1
ふじのくにせかい演劇祭	静岡市	15,979	—
ディスカバリーパーク焼津天文科学館	**焼津市**	**15,511**	**+38.2**
静岡市立登呂博物館	静岡市	14,486	+6.5
ＩＡＩスタジアム日本平	静岡市	13,100	△14.0
道の駅　川根温泉	島田市	12,566	△2.1
東海大学海洋学部博物館	静岡市	11,791	+15.9
静岡科学館る・く・る	静岡市	10,880	△13.5
浜岡原子力館	御前崎市	10,861	+5.5
天下泰平の湯すんぶ夢ひろば	静岡市	10,780	△2.4
ふじのくに茶の都ミュージアム	島田市	9,746	—
さがら子生れ温泉会館	牧之原市	9,449	△6.5
体験工房 駿府匠宿	静岡市	8,910	△3.3
大久保グラススキー場	藤枝市	8,461	+7.4
静岡市ふれあい健康増進館 ゆらら	静岡市	6,876	+5.7
瀬戸谷温泉ゆらく	藤枝市	6,394	△9.8
うみえ～る焼津	焼津市	5,571	△5.8
中部地域その他44カ所		591,207	—
中部地域　合計		**1,462,480**	**△11.3**
浜松まつり	浜松市	1,773,000	△4.6
アクトシティ浜松	浜松市	113,587	△8.6
浜名湖ガーデンパーク	浜松市	76,347	△8.5
静岡県立森林公園	浜松市	55,000	+19.6
はままつフラワーパーク	浜松市	46,793	+4.6
道の駅　掛川	掛川市	44,515	△10.5
道の駅　潮見坂	湖西市	42,318	△9.4
浜松市動物園	浜松市	42,178	+1.0
池田・熊野の長藤まつり	磐田市	39,000	+2.6
うなぎパイファクトリー	浜松市	37,893	△12.5
ボートレース浜名湖	湖西市	33,062	+12.0
航空自衛隊　浜松広報館	浜松市	23,261	△0.8
浜松オートレース場	浜松市	18,720	△34.7
竜ヶ岩洞	浜松市	17,679	△7.7
浜松城	浜松市	15,322	△21.9
浜名湖渚園キャンプ場	**浜松市**	**11,004**	**+84.3**
静岡県営遠州灘海浜公園	浜松市	10,900	△23.2
掛川城	掛川市	10,242	△18.0
龍潭寺　新緑・さつきまつり	浜松市	10,010	△71.4
森町体験の里 アクティ森	森町	9,264	△6.1
道の駅　天竜相津花桃の里	浜松市	7,862	△15.2
湖西市アメニティプラザ	湖西市	7,177	+2.5
浜名湖体験学習施設ウォット	浜松市	7,072	+11.4
道の駅　くんま水車の里	浜松市	6,690	△1.9
道の駅　いっぷく処横川	浜松市	6,414	△4.0
浜松市博物館	**浜松市**	**5,960**	**+34.7**
竜洋昆虫自然観察公園	**磐田市**	**5,843**	**+32.1**
浜松市楽器博物館	浜松市	5,687	+11.0
西部地域その他38カ所		858,953	—
西部地域　合計		**3,341,753**	**△4.9**
静　岡　県　合計		**7,484,579**	**△6.1**

資料：図表１に同じ

注１）データ公表が可能で、入込客数が5,000人以上のイベント、施設のみを掲載した
注２）各地域の最下部には、人出が5,000人未満およびデータ公表を不可としたイベント、施設の数字を合算して記載した
注３）人出の合計値は、今年度の実数が把握可能なすべての数値を合算
注４）前年比＋20%以上：青太字、同△20%以下：青字
調査方法：ＧＷ期間中の主なイベントや観光・レジャー施設など、448先に調査票を発送、うち255カ所から回答を得た（回答率56.9%）